

「卒業生『答辞』に想う」

過日に挙行いたしました卒業式の「答辞」を紹介し、今年度の最終号とさせていただきます。

答辞は補習校の「たからもの」。

小学部は、卒業生たちが、友達と過ごした6年間の思い出と、お家の人への感謝の思いを「詩」に込め、結びは心のこもった全員合唱を披露してくれました。その姿は、だれもがきりっとしていて、勇ましく、堂々としていました。子どもたちは「たからもの」と、改めて想いました。

中学部、高等部は、卒業生の代表が…。それぞれの「答辞」全文（原文のまま）を、サンフランシスコ校、サンノゼ校の順に紹介いたします。最後まで、お読みくださいますと幸いです。

・中高部サンフランシスコ校「中学部」卒業生代表

まだ寒さが残る中にも、春の訪れが感じられるこの良き日。本日、私たち38名の卒業生の為にこのような素晴らしい式を挙行してくださり誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、ご出席くださいました御来賓の皆様、先生方、保護者の皆様、心より御礼申し上げます。

思い起こせば3年前、オンライン授業から始まった中学校生活。先生の顔が固まり、友達の声は途切れたりWiFiの問題が多くありました。翌年の始業式では入学式のような緊張感があり、新しい校舎に迎えられながら対面授業がスタートしました。対面授業が始まるとともにいろんな学校行事も始まりました。走って並んだフードセール。最初は要領を得ず、何を買おうか迷ってウロウロしている間に欲しかった物が売り切れてしまい、買えなかった時もありました。でも皆でワイワイと食べるフードセールは祭りのような賑やかさで楽しい思い出となりました。球技大会では、クラスごとにオリジナルTシャツの作成、チーム名を決める事から始まりました。違う学年と他のクラスとの試合は普段味わえない面白さがありました。いつの間にか二つのクラスが一つの学年となり、他の学年との試合に熱狂しました。文化祭はいつも意見がまとまらず、投票形式で決めました。一度決まると、皆協力し合い、文化祭を成功させようという気持ちが高まりました。

この三年間補習校の定期テストや現地校の宿題、スポーツなど補習校との両立が難しいことが何度もありました。小学校の頃からの友達や中学部に入ってからできた新しい友達、強い絆で繋がったその仲間たちは、補習校に通う活力となりました。「継続は力なり」、ここまで続けられた「力」は補習校以外の分野にも大いに役立ちます。本日をもって補習校を卒業する者、高等部に進学する者、歩む道は違えど、補習校での思い出や教訓は、胸に残り続けます。

在校生の皆さん、これから先、勉強や授業内容が複雑になり、現地校との両立が難しくなってくると思います。私たちも例外なくそうでした。それでも、乗り越えられたのは毎週土曜日通い続けられる「何か」があったからです。仲間たちとの励まし合い、年間行事、「学びたい」という

気持ちなどです。その何かを持っていない人に一言、「未来の自分の観点から考えろ」。半年後の自分は今の自分にどんな事を言っているか、考えてみてください。僕は去年空手の大会に出て負けてしまいました。大会のために日々鍛錬して、準備万端の状態でした。それでも勝てなかったのは、結局は練習不足だったからです。矛盾していると思いますが、僕が言いたいのは現実はその甘くないということです。本気でやってだめだったら、それ以上に努力する必要があります。毎日腕立伏せ 50 回してだめだったら 200 回。実際に戦って、現実を味合わないといけないことは山のようにあります。変に攻略本や動画ばかりを見るよりも実際にやって、結果がどうであれやった人は、なんの行動も取っていない人と比べて百倍学んでいます。「次は何を改善しよう」「次回は勝ってやる」やってみて初めてわかったこと、思ったことから「未来の自分」という新しい存在ができるのです。ですから、まず行動に移すことからやってみてください。そしたらきっと目的を見つけることができるはずです。最初は怖かったり、辛いこともあると思います。それでもやり続けるという自分の意志の強さこそが「何か」なのです。あなたたちの「何か」は僕を含めて他人が決めることではありません。自分の人生です。この補習校を通して見つけ出せることを願っています。

生徒の安全のために働いてくれたスタッフの方々、いつも面白く、わかりやすく授業をしてくださった先生方、そして土曜日の朝からお弁当作り、送迎、当番など毎週してくださった保護者の皆様、誠にありがとうございました。自分たちをいつも勇気づけ、影で支えてくれた両親達には、感謝しかありません。

私たちはこの3年間多くのことを学び、そして今日、卒業式を迎えることができたのは皆様のご指導、ご支援があったからだと感謝しています。本当にありがとうございました。卒業生を代表してもう一度心から感謝を申し上げ、答辞とさせていただきます。

・ 中高部サンフランシスコ校「高等部」卒業生代表

日増しに日差しが和らぎ、春の訪れを感じるようになりました。本日は私たち卒業生のためにこのような卒業式を挙げていただきありがとうございます。また、多忙の中ご出席くださった来賓の皆様、先生方、保護者の皆様、そして在校生の皆様、卒業生一同心からお礼を申し上げます。心の中の桜の花が開き、ほんのり温かい気持ちで私たち 24 名は卒業という「出口」にたどり着きました。

補習校最後の一年はあっという間でした。楽しみにしていたイベントもいつの間にか過ぎてしまい、気付いたらもう卒業式。この場に立つ私たちは、「ここまで来られた!」、「卒業できた!」という喜び、「もう終わりか」という寂しさなどのいろいろな思いが混ざりあい複雑な気持ちです。

球技大会でチーム名を「山田マート」とし、ドッジボールで男子が見事優勝した時、クラスの団結力を感じました。フードセールで美味しいカレーやラーメンなどを食べ、豆乳のボトルを重

ねて遊んだ時、古本市でどっさり本や漫画を買った時、ハロウィンの仮装コンテストでコスチュームに点数をつけた時、期末テストでひどい点数を見て笑ったり、思ったよりできたと感動した時、そしてつい先週の文化祭で三歳からの幼馴染とジブリのキャラクター診断のカードを作ったり、三人で個人演技の司会をした時などと、私たちは、この一年間で様々な思い出を作ることができました。

もちろん、子供と大人の狭間にいる私たちは、いろいろなことに悩んでいました。私は長い間、自分が将来何をしたいか分かりませんでした。周りの人たちは、何となく決まっているようだったので、何をしたいか分からない自分に焦りと不安がありました。余りにも悩みすぎて、高1の時にそのことについて作文を書いたら、文芸作品コンクールで特選を取ってしまいました。それから一年も経たずに、日本で経済学と政治学を学びたいと思うようになり、今は日本で住むアパートを探している真っ最中です。一年前の私には考えられないことでした。自分の日本語力にある程度自信が持てたことで、日本の大学に行くことが可能になったのは12年間通い続けた補習校のおかげです。

肉まんのことなどの面白い話や、ラッコの写真を毎回見せてくれながら授業をしてくださった先生方、毎週私たちを見守ってくださった教職員の皆様にも感謝いたします。

古本市やフードセールなどのイベントは保護者の方々のおかげで楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

在校生の皆さん、補習校での残りの時間を大切に、できるだけ楽しく悔いのないように過ごしてください。これは、今日補習校を卒業する私たちだからこそいえる言葉です。

明日から私たちの新たな人生が始まります。決して、楽しいことだけではないでしょうが、「自分らしさ」を忘れずに歩んでいきます。

最後になりましたが、学校生活を支えてくださった全ての方に改めてお礼を申し上げ、補習校の益々の発展を祈り、答辞といたします。

・ 中高部サンノゼ校「中学部」 卒業生代表

暖かな陽の光に、春の訪れが感じられる季節となりました。この佳き日に、ご来賓の皆様のご臨席、そして在校生の皆さんからの励ましのお言葉を賜り、私たち三年生は中学部を卒業します。本日、私たちのためにこのような心温まる卒業式を挙行していただけますことを卒業生一同、心より御礼申し上げます。

中学一年生の後期に入った頃。オンライン授業で埋め尽くされた日々から開放され、ようやく対面授業になったと思えば、どこを見てもマスク姿の先生や先輩。不安を覚えるばかりでした。それでも、先生方が工夫してくださった授業のお陰で交流の機会も増えました。時間が経つとともに一人、また一人と友人ができて、今では皆で大変賑やかな土曜日を送れることが、私にとっては嬉しくて仕方がありません。振り返れば、中学部での新しい学校行事の新鮮な体験が、私たち全員をまとめてくれたのかもしれない。

中学二年生。補習校生活に馴染み、後輩もできました。秋には兄から聞かされていたフードバザーが復活し、それがいかに素晴らしい行事かを体験することができました。全生徒の交流の場となる古本市や学芸祭、そしてフードバザーなどの魅力的なイベントを毎年開催して下さる先生や保護者の皆様に、この場を借りて深く感謝いたします。

そしていよいよ中学三年生。相変わらず活気あふれる毎日を過ごしつつも、着々と近づいてくる終わりを実感し始めました。中間テストがなくなり、膨大な量になってしまった期末テストの勉強。それを嘆く日もあれば、入学からもう三年が経ってしまったのか、もう卒業か、としみじみすることもありました。だからこそ、私たちは今年、過去にないほど全身全霊で物事に挑めたのだと思います。ご心配をおかけしたことも度々あったと思いますが、それでも根気強く支えてくださった先生方、ありがとうございました。

高等部に進学する友。今日が補習校での最後の日という友。中学部での経験や温かい思い出を胸に、私たちはそれぞれの道を進んでいきます。この思い出を共に作り上げてくださった先生方、同級生や先輩、後輩の皆さん、そして生まれた時からずっと応援してくれた家族には感謝してもしきれません。この三年間、私たちを支えてくださり本当にありがとうございました。この場にいる中学部卒業生の全五十四名は、世界の架け橋となるために日々精進して参ります。今後とも温かく見守って頂けると幸いです。

最後になりましたが、ご臨席して下さった皆様のご健勝と、サンフランシスコ日本語補習校の益々のご発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

・ 中高部サンノゼ校「高等部」 卒業生代表

ベイエリアの雨の恵みが大地を潤し、動物も、草花も、新しい一年へと進み始める季節になりました。本日は私達卒業生のために、このような素晴らしい式を挙げて下さり、誠にありがとうございます。お忙しい中ご臨席頂いた皆様への感謝を胸に、今日、私達はサンフランシスコ日本語補習校高等部を卒業します。

補習校の中高部に進学した時、学びのほかに沢山の行事が楽しみでした。しかし、中1の終わりに突然コロナ渦が始まり、私達は中学三年までの二年間をほぼオンラインで過ごしました。高校に入学した時は「高校生になった」という自覚がありませんでした。

それでも、高校生になり、待ち望んできたイベントが開催されました。対面後初めてのスポーツ大会では、バスケの準決勝が高校1年での同学年対決になりました。スポ根漫画も驚きの展開になったのは、忘れられない思い出です。今年の学芸祭では今までの補習校生活を振り返る劇をみんなで楽しく演じました。普段はあまり話さない人たちとも一緒に練習を重ね、クラスとしての団結がより一層強まりました。

私達の学年は小学1年の時六クラスでスタートしました。しかし、帰国したり色々な事情でやめていく友達も多く、四十五人で卒業式を迎えることになりました。今日、僕がここに立っているのは一緒に続けてきたこの四十五人がいたからです。授業中にわからないところがあれば、授業中でも席を立て丁寧の説明をしてくれたことは何度もありました。もちろん、席を立つ度に怒られました。怒られながらも互いに支えあい、最高学年にたどり着くことができました。

人は何より、経験に学ぶ。しかし、経験をどのように生かすか、その学び次第で、それぞれの人生は大きく変わる。だから経験そのものが貴重なのではなく、そこから何を、どのように学ぶか、が肝要なのだ。

これは論理国語の「経験の教え」からの一節です。私たちは補習校でしかできない経験を数え切れないほど重ねてきました。様々な日本の文学を学び、日本語で数学を学び、そして日本の社会について学びました。この学びは私たちの大きな力になりました。在校生の皆さんも補習校での経験を生かし、学び続けてください。

これまで我慢強く私達と向き合ってくださいました先生方、ありがとうございました。先生方が私達のために授業を工夫し、丁寧に教えて下さったおかげで、楽しく日本語で学ぶことができました。また、毎週当たり前のように送り迎えをし、お弁当を作り、いつも見守ってくれた家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。最後まで補習校の旅を続けさせてくださり、ありがとうございました。

私達は世界に羽ばたく羽を、補習校で身に着けました。

私達の「補習校終着点までの長い旅」を見届けてくださった全ての方へ、改めてお礼を申し上げます。そして、今後の補習校の更なる発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

卒業生それぞれ、壇上で堂々と、また情感を込めた話しぶりに、在校生も共感し、涙する姿が見られました。その姿から、補習校は、同じ悩みを一緒に考えてくれる友だちや先輩がたくさんいて、ともに学び、ともに生活することを通して、視野を広げ、人としてどう生きていけばいいのかを考えさせてくれるところと、改めて想いました。

そのために私たち教職員は、子どもたちに日本語を学ぶ意欲や動機づけを与えることが、きわめて大切と考えています。今年度、子どもは、大切なお子様「たからもの」をお預かりし、皆様の期待に添えるよう努めてまいりました。次年度も、皆様の期待に添えるよう努めてまいります。なかでも、「主体性の涵養」を重点に、活動の目的や目標を明らかにし、達成に向けて努めた自分を「振り返る」習慣を身に付けさせようと、考えています。そのことにより、あきらめずに最後までやり遂げる力、友だちと協働する力などの「学びに向かう力、人間性」の育成を目指してまいります。今年度末を迎えるにあたり、今日まで、補習校に寄せられましたご理解とご協力に、改めて深く感謝申し上げます、お礼に代えさせていただきます。本当にありがとうございました。そして、次年度もどうぞよろしくお願いいたします。